

史跡整備・活用等特別委員会資料

案件 1：高槻城公園等の整備について

案件 2：歴史遺産を活用したまちづくりについて

令和 6 年 2 月 5 日

【 街 に ぎ わ い 部 】

案件 1 : 高槻城公園等の整備について

目 次

1	主な経過等	1-1
2	公園整備（北エリア）	1-4
3	今後の予定（北エリア）	1-8

1 主な経過等

(1) 主な経過

年 月	主な経過等
平成16年 3月	・城跡地区基本構想素案（試案）の策定
平成23年 3月	・市民会館建て替え基本構想の策定
平成27年 2月	・市民会館建替基本計画の策定
平成28年 3月	・城跡公園再整備基本計画の策定
平成29年 2月	・城跡公園の都市計画変更（公園区域の拡大）
令和元年 9月	・高槻城公園芸術文化劇場南館工事に着手
令和3年 2月	・城跡公園の都市計画変更（公園区域の拡大、名称変更）
令和3年 6月	・高槻城公園中央エリア整備工事に着手
令和5年 1月	・文化財保存活用地域計画の策定
令和5年 3月	・高槻城公園中央エリアの開園（3月18日）
令和5年 6月	・高槻城公園北エリア施設解体工事に着手 （令和6年度末に完了予定）



中央エリア開園（令和5年3月）



市民会館解体状況（令和5年11月）

(2) 関連計画

① 城跡公園再整備基本計画

■計画の目的

公園内に設置される高槻城公園芸術文化劇場との調和を図りつつ、緑と歴史にふれあう交流拠点として一体的に再整備するために策定

■再整備基本理念

みどり・歴史・文化でつながる 憩いとにぎわい空間の創出

■歴史の整備方針

- ・城跡を思わせる施設を設置
- ・高槻城の空間構成要素を参考に整備



高槻城と計画地の配置比較（赤枠が計画地）

② 文化財保存活用地域計画（計画期間：令和４年度～令和１３年度）

■ 概要

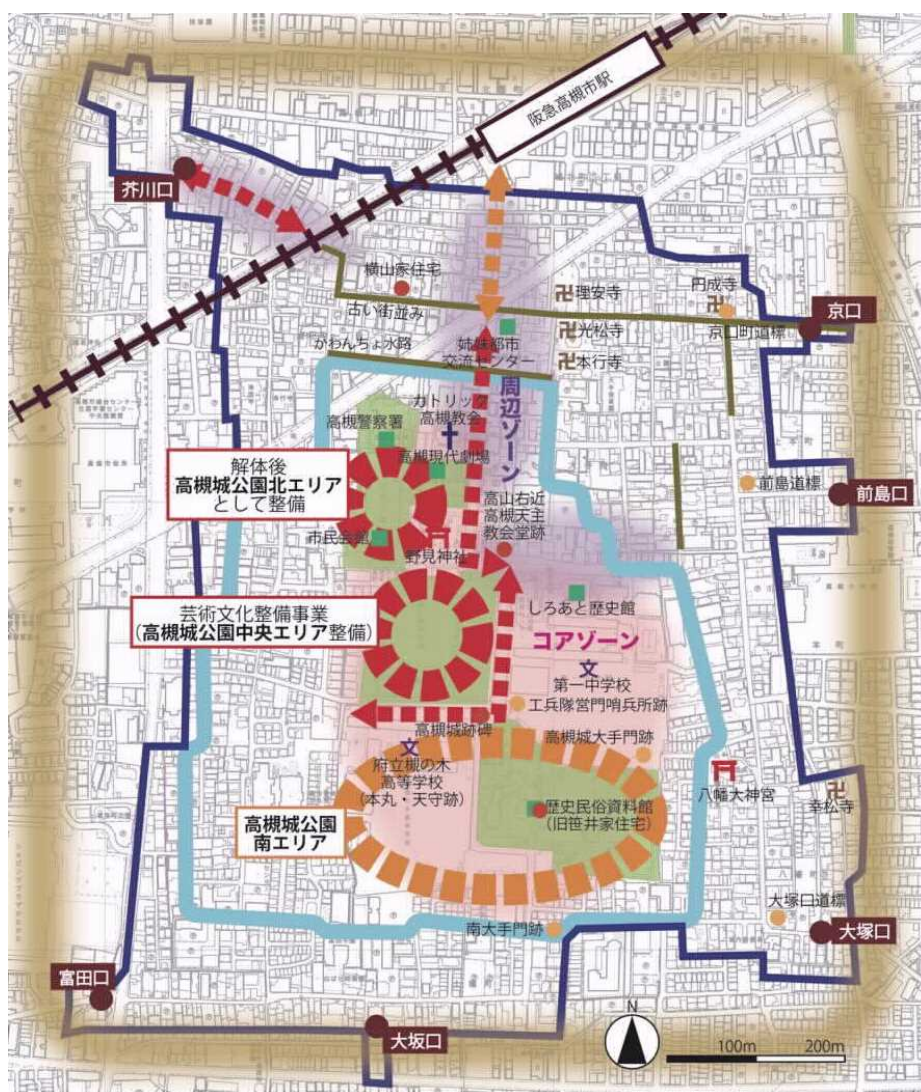
高槻城を核とする「城下町エリア」を、文化財が集中し、文化的な空間を創出する文化財保存活用区域に設定

■文化財保存活用区域の目的

文化資源・文化財の地域のアイデンティティやシンボルとしての認知を広げ、市民の誇りや愛着をはぐくんでいく

■城下町エリアの目指すべき姿

かつての高槻城を思わせる堀や塀を再現するなど、歴史的な遺構を現代的に再現する他、城下町のシンボルともなる天守や櫓等、「高槻城の復元」を目指す



城下町エリアの範囲

■ 城下町エリア範囲

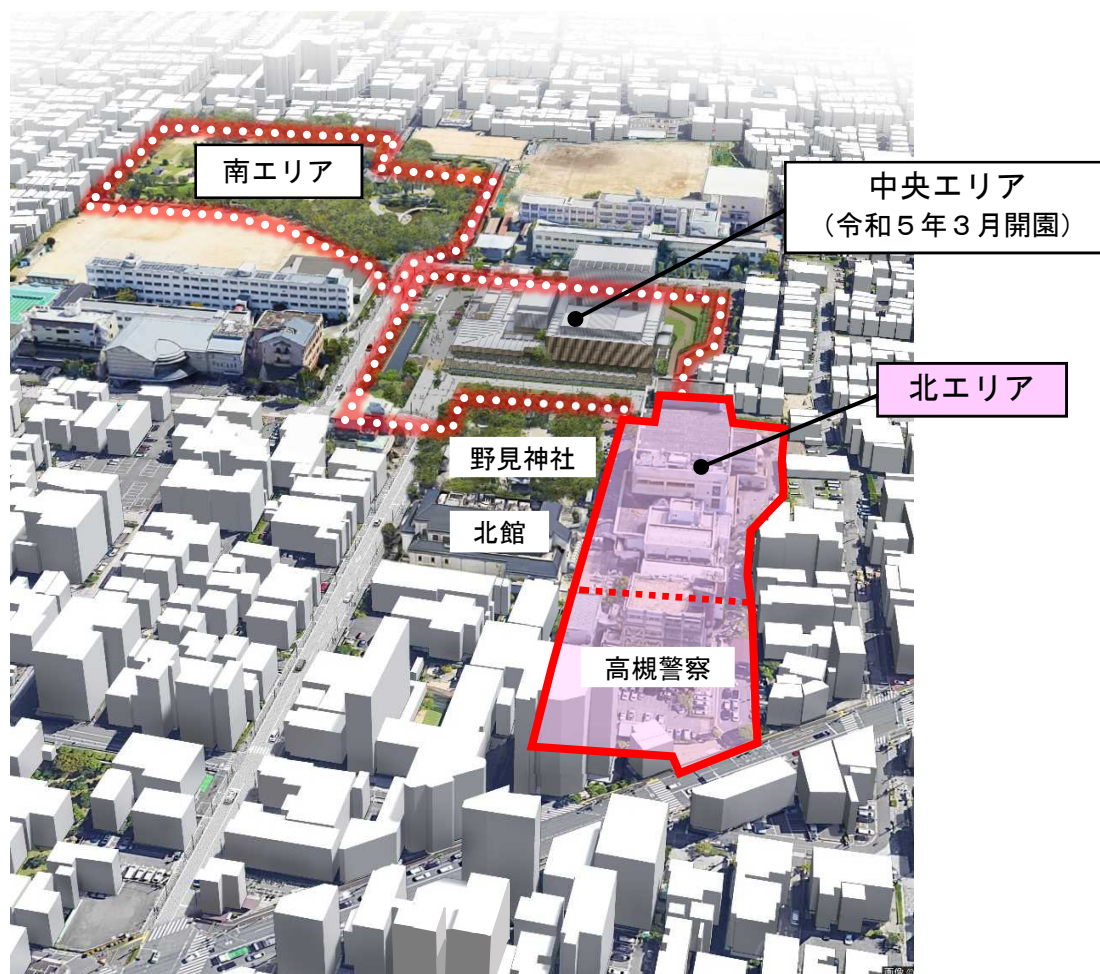
江戸時代後期の町割範囲

■ 城の外堀

2 公園整備（北エリア）

○高槻城の跡地に整備され、長年市民に親しまれてきた城跡公園を、芸術文化劇場の整備に併せて、歴史的景観づくりのシンボルとなる「高槻城公園」としてリニューアル

○市民会館等の跡地を高槻城公園北エリアとし、かつての高槻城三の丸を再現



高槻城模型（しろあと歴史館）

高槻城公園北エリア

- ・かつて大坂城、岸和田城とともに、府内三大城下町として繁栄していた高槻城
- ・北エリアは高槻城三の丸の跡地
- ・北西隅には2層式の乾櫓が存し、外周は土塁と土堀で囲われていた
- ・内部には武家屋敷や番所などが存していた

■平面計画（案）

- 絵図等に基づき、歴史性を重んじた伝統的な技法・材料による再現
- 高槻城を構成した乾櫓や高麗門をはじめ水堀や石垣、土塁、土塀、武家屋敷の区画などを再現
- 市街地の新たな安らぎと憩いの空間となる芝生広場や休憩所などを設置

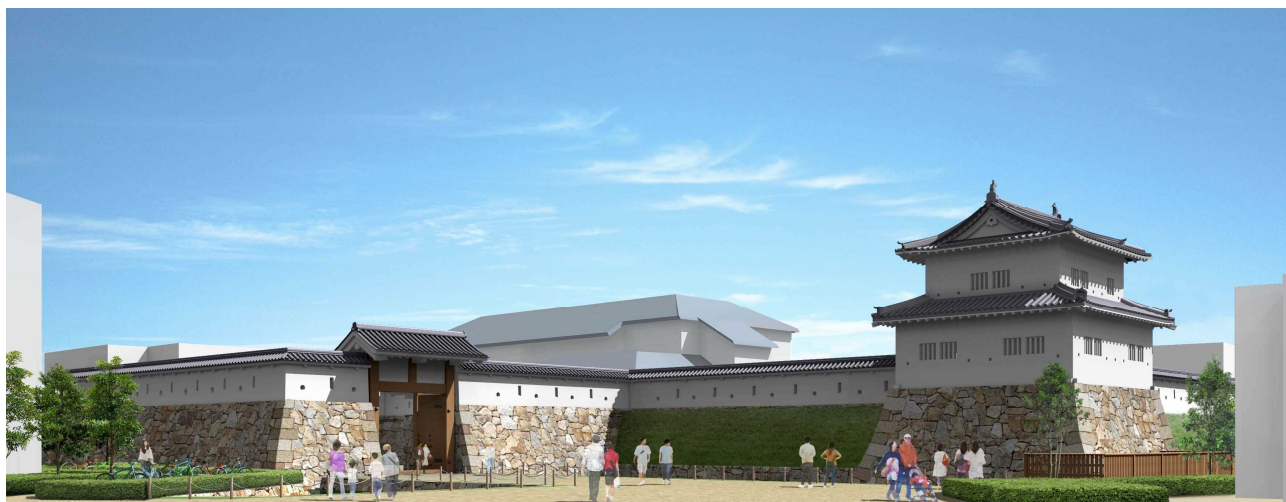


■整備イメージ

- ・北からの眺望（全体）



- ・国道１７１号からの眺望（乾櫓、高麗門）



※将来イメージのため、今後変更する可能性があります

- ・園路 北からの眺望（番所、休憩所、トイレ）



- ・園路 南からの眺望（東屋）



- ・芸術文化劇場北館 東からの眺望



※将来イメージのため、今後変更する可能性があります

3 今後の予定（北エリア）

年度	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 ～ 8 年	令和 9 年～
市民会館	解体工事			
公園整備	基本設計	実施設計 ①	公園工事 ① (一期エリア)	
			一次開園	
				実施設計 ② (二期エリア)
			公園工事 ②	二次開園
【主な公園施設】				
			・土塁、土堀 ・休憩所 ・トイレ ・東屋 ・駐車場 など	・乾櫓 ・枅形門（高麗門） ・土塁、土堀 ・番所 ・水堀 など

案件 2 : 歴史遺産を活用したまちづくりについて

目 次

1	芥川城跡の取組について	2-1
---	-------------------	-----

1 芥川城跡の取組について

(1) 主な経過

年 度	調査等の主な取組
平成5年度	・城跡全体の遺構分布調査。城跡の詳細構造を把握し、概要図作成 ・三好山山頂に位置する主郭(本丸)での発掘調査。本格的な御殿建築を確認し、三好長慶の時代にあたる外国製陶磁器や備前焼、宴会や明かりを灯す際に使った皿などが出土
平成6年度	・主郭近くの曲輪での発掘調査。外国製陶磁器や丹波焼が出土
平成19年度	・しろあと歴史館で特別展「三好長慶の時代-「織田信長 芥川入城」の以前以後-」を開催
平成28年度	・大手石垣のレーザー測量調査
平成29年度	・城跡全体の航空レーザー測量調査
平成30年度	・大手道東側に位置する曲輪石垣のレーザー測量調査
令和元年度	○史跡指定に向けた取組を開始 ・芥川山城跡調査委員会(附属機関)の設置 ・石垣の分布調査 ・遺物の分布調査 ・文献調査 ・法務局調査
令和2年度	・主郭一段下の曲輪における発掘調査。全国的にも珍しい「櫓」の跡を確認し、天目茶碗や硯などが出土
令和3年度	・総合調査報告書の刊行 ・文化庁に史跡指定申請(意見具申)
令和4年度	○史跡「芥川城跡」告示(11月10日) ・本市が管理団体の指定を受ける
	・特別展「戦国武将 三好長慶」、指定記念歴史講演会を開催 ・登城ルート復旧
令和5年度	・ARアプリ配信、特別連続講演会を開催 ・史跡指定地の公有化事業に着手(測量)

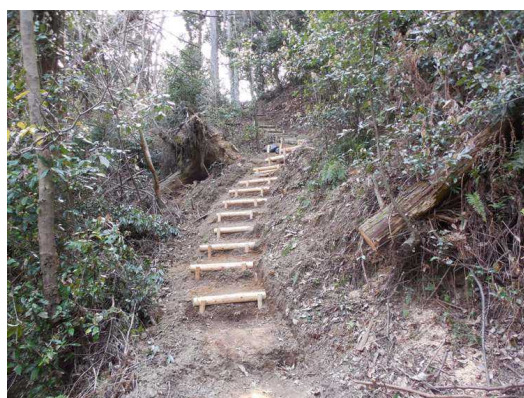
(2) 史跡指定後の取組

① 保存の取組

災害等で不通となっていた登城ルートへの復旧を実施



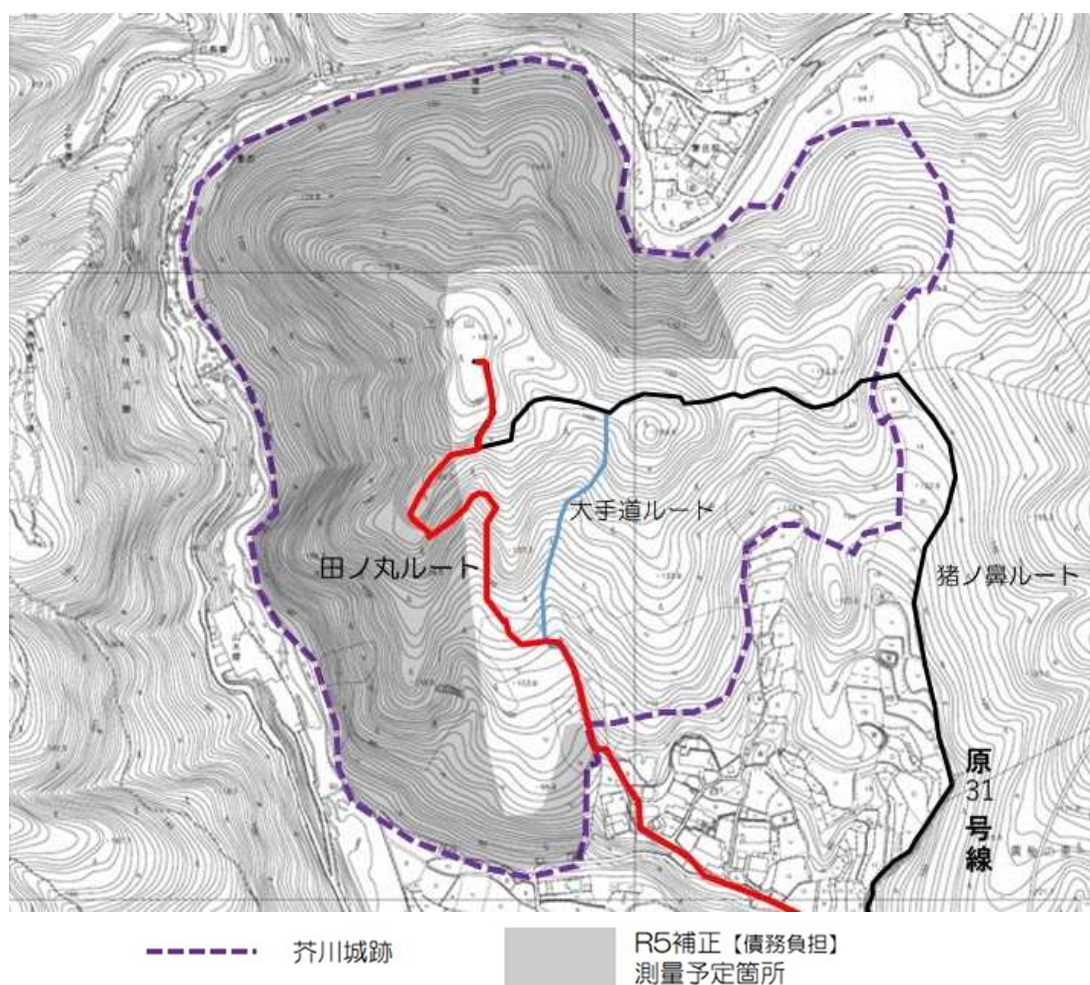
復旧作業



復旧した木製階段

② 公有化に向けた取組

史跡芥川城跡の速やかな保存と今後の活用のため、史跡指定地の一部について公有化に向けた土地の用地測量に着手



③ 活用の取組

令和5年4月6日、「城の日」に合わせてアプリ「AR芥川城」を配信開始したほか、特別連続講演会「芥川城の実像に迫る」の開催、令和5年11月からは史跡指定1周年を記念した御城印・武将印の頒布を実施



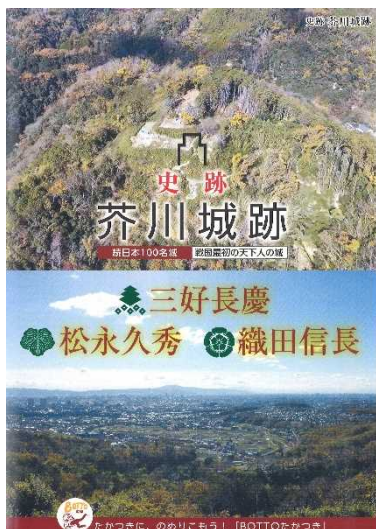
講演会の様子



アプリ「AR芥川城」



御城印・武将印



パンフレット

(3) 今後の予定

時期		短期 (令和6～7年度)	中期 (概ね5年程度)	長期 (概ね10年程度)
史跡指定地	保存 の取組	用地測量 公有化 維持管理		
	活用 の取組	基本構想 (史跡保存活用計画※)	基本計画・設計 発掘調査	整備工事 歴史講演会の開催 ARアプリの配信 御城印・武将印の頒布

※史跡保存活用計画…具体的な取組内容を位置付けし、文化財の保存と活用を進めていくための指針となる基本的な計画であり、文化庁が認定するもの